



これからのイノベーション戦略を考えるー
多様性と工学・社会リテラシー

How can Engineering Contribute to Innovation Strategy?

渡辺 美代子

Miyoko O.Watanabe

国立研究開発法人科学技術振興機構 副理事

Deputy Executive Director, Japan Science and Technology Agency

日時: 2017年12月14日(木) 14:55-16:40
会場: 東京大学工学部2号館2階223号講義室
授業科目: 工学リテラシーⅡ(科目番号3799-150)

要旨

概要:

イノベーションを語る学者は欧米に多く、欧米方式が世界のイノベーション戦略の標準となっているが、果たしてこの流れはこれからも続くだろうか。欧米方式を一言でまとめると、経営者と現場担当者の意思疎通が少なく、責任と権限は経営者個人にある。一方、日本の経営方式では個人に責任が集中せず皆で話し合っ決めて、また組織の意志決定の原案は現場の担当者が作成することに特徴がある。よって、日本の強みは現場力であり、経営力の弱さを補完しているとも言われている。

グローバル化で欧米方式が標準になる中、欧米方式の限界も指摘され、むしろ設計から製造、その後の検証まで様々な立場の人が共に関わることの必要性が訴えられている。現場力に強みを持つ日本は、これからどうするのがよいだろうか。様々な事象から皆さんと一緒に考えてみたい。



主催: 東京大学大学院工学系研究科「機械システム・イノベーション」プログラム(GMSI)
東京大学 社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム(GSDM)
本件連絡先: 東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻 教授 横野 泰之
GMSIプログラム事務局 E-mail: office@gmsi.t.u-tokyo.ac.jp Phone: 03-5841-0696